

令和 4 年度 第 1 回学校関係者評価委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】 令和 4 年 9 月 27 日（火） 14:00～18:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）
小泉 利幸（三進興産株式会社）
道狭 ひろ子（ひろこ整骨治療室 院長）
小林 篤史（株式会社ボディスプラウト 代表取締役）
松井 薫（国際ライセンス「NESTA PFT」日本支部 協会設立参画理事 等）
学校 奥田 久幸（校長）
岸本 光正（副校長）
森下 友雄（学科長）
伊藤 恵里（副学科長）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
鴨田 佳典（柔道整復学科教員）
事務局 吉田 智哉（事務部長代行）
小浜 悠樹 川上 英史 圓乗 佑太 伊藤 真紀 緒方 洋太郎 太田 悠香
兼子 啓太郎（議事録）

以上 19 名

【欠席】 委員 伊藤 述史（公益社団法人日本柔道整復師会会長）
佐藤 和伸（佐藤代田接骨院 院長）

【議題】 (1) 学校経営重要指標の今年度前期着地見込みについて
1. 退学除籍率 2. 就職率 3. 定員充足率 4. 国試合格率
(2) 卒業後の学習支援について
1. 現状の実施状況 2. 卒業後の学習支援領域 3. 質疑応答

(1) 学校経営重要指標の今年度前期の取組と着地見込みについて

学校経営重要指標としている4項目について、今年度の着地見込みの報告を行った。

1. 退学除籍率
2. 就職率
3. 定員充足率
4. 国試合格率

①退学除籍率

○着地見込み

目標に対して、着地見込みは0.7pt不足

○上半期の取組

1. 教務職員によるクラス副担任を新設
2. 学科会議にて中退の危険性のある学生を早期共有
 - ・クラス担任間だけでなく、教職員全体での学生フォロー体制の構築。
 - ・毎週各担任より欠席の多い学生の報告を行い、早期対応をしている。
3. 授業時間外の学生への実技室開放
 - ・学生同士および教員とのコミュニケーションの場として利用している。
 - ・実技の復習の場を提供し、早期不安解消を図る。

○下半期の取組予定

1. 学生管理台帳の運用の徹底
 - ・次年度の学生データの引継ぎとしても活用。有効活用も検討していく。
2. 無断欠席学生への迅速な対応（電話・GoogleClassroomを活用）
3. 退学の兆しのある学生に対して「真因」を引き出し、退学阻止に努める

②就職率

○着地見込み

就職決定率：目標に対して、着地見込みは2.5pt不足

進路決定率：目標に対して、着地見込みは2.2pt不足

○上半期の取組

1. 4月開催の第1回業界フェスタへの参加促進：過去最多131名が参加
2. 新たな就職先の開拓：約30の受け入れ可能な治療院を開拓
3. クラス担任との連携・情報共有

○下半期の取組予定

1. 学生ニーズに合ったテーマでのイベント実施
2. 高年齢層の就職支援
 - ・年齢制限を設けていなく、幅広く採用をおこなっている治療院の開拓
 - ・開業や訪問鍼灸などの知識が得られる機会を設ける
3. 1、2年生に対する早期からの就活意識付け

③定員充足率

○着地見込み

目標に対して、着地見込みは14名不足

○上半期の取組

1. 高3生の獲得

- ・ SNS (TikTok、Instagram) の活用
- ・ リスティング広告
- ・ 「高校生3年生のためのオープンキャンパス」
- ・ 在校生スタッフ企画のイベント開催
- ・ 歩留向上ミーティングの実施
- ・ 高校とのパイプ作り

2. 日本医専高等部の発足

- ・ 「日本医専の春フェス2022」への招待
- ・ メンバー同士の交流会、ゼミ見学会の実施
- ・ トレーナー現場見学

○下半期の取組予定

1. 高3生への出願促進

- ・ 特待生試験への案内
- ・ 総合型選抜エントリー者への出願フォロー
- ・ 地上戦チームによる高校訪問活動の継続

2. 既卒への学生募集活動

- ・ 10月より募集ターゲットを既卒に切り替え
- ・ 専門実践教育訓練給付金・夜間部支援金による夜間部募集の強化
- ・ オンライン授業のメリットの訴求

3. 次年度募集に向けた早期募集活動のスタート

- ・ 9月より高2生対策の早期実施
- ・ 次年度に向けた「未来活躍プログラム」の訴求への準備

④国試合格率

○着地見込み

目標に対して、着地見込みは17.6pt不足

○上半期の取組

1. 国試合宿の早期開始(5月・12月・2月) ※例年は本番直前に実施
2. 実力試験とその振返りを実施: 学生の苦手分野を重点に解説
3. 国試三ヶ年計画

国試合格を見据えた3年間の計画を立て、組織的学習支援をスタート

○下半期の取組予定

- ・学習支援体制の更なる強化
グループ学習(学生同士の学び合い)中心の仕組みづくりを強化していく。
- ・個への対応
補講不参加学生の原因を突き止め、グループ学習に固着せず柔軟に対応。
- ・独自開発したスマホアプリで、問題演習配信とその後追いの徹底

【質疑】

- ・電話や Google クラスルームからの個別連絡について
欠席が続く学生への個別連絡は、「忘れられていない」「気にしてもらっている」という意識が芽生えるので、大切なことだと思う。
- ・国試合格率
夜間部の着地見込みが従来よりも落ちている印象だが、原因は何が考えられるか？
→勉強時間が確保できていない。
またそれを確保するような生活スタイルに指導がしきれていない。

(2) 卒業後の学習支援について

自己評価を行い、学内で協議を行った結果、優先取組事項として「卒業後の学習支援」が挙げられ、本件について以下の報告がなされた。

1. 現状の実施状況
2. 卒業後の学習支援領域
3. 質疑応答

卒業生に対する支援として行うべき事柄やテーマについて意見交換を行った。

委員からは以下の意見が挙げられた。

- ・臨床実習はあるものの、治療院で働く経験をしないままに卒業・就職をする学生が多いように感じる。
見学・体験ができる治療院をリスト化し、臨床実習以外でも気軽に見学・体験ができる機会を作っていったらどうか。
- ・本当に今必要とされている力が何か？
私たちが学生だった頃と変わってきているように感じる。
柔道整復師としての知識・技術だけでなく、社会人として求められる能力を身に付けられる要素が必要だと思う。最も大切なことは「自信」。
「自信」のある人が成果を上げる。

- ・柔道整復師の国家試験で中心となるような「整復」よりも、現実の社会的なニーズは「ストレッチ」や「マッサージ」にもあるように感じる。

柔道整復師＝治療院ということ自体を考え直す必要がある。

(治療家だけではない道がある)

トレーナーで言えば、身体の仕組みをしっかりと理解した「柔道整復師」という国家資格を持った人材を輩出してほしい。

令和 4 年度 第 1 回学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】 令和 4 年 9 月 29 日（木） 15:05～16:05

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
藤原 良次（本校校友会 会長、株式会社アールエフ 代表取締役社長）
鈴木 幸次郎（株式会社天心堂鍼灸院 院長）
松田 博公（元東洋鍼灸専門学校 副校長）
寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）
小林 潤一郎（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
武内 潔（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
学校 岸本 光正（副校長）
天野 陽介（学生委員会・鍼灸学科長）
青木 春美（プロフェッショナル育成マネージャー・鍼灸学科教員）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
渡邊 靖弘（鍼灸学科教員）
西野 祐介（鍼灸学科教員）
森下 友雄（柔道整復学科学科長）
伊藤 恵里（柔道整復学科副学科長）
事務局 吉田 智哉（事務部長代行）
小浜 悠樹 川上英史 圓乗佑太 伊藤真紀 緒方 洋太郎 太田 悠香
兼子 啓太郎（議事録）

以上 23 名

- 【議題】 (1) 学校経営重要指標の今年度前期着地見込みについて
1. 退学除籍率 2. 就職率 3. 定員充足率 4. 国試合格率
(2) 卒業後の学習支援について
1. 現状の実施状況 2. 卒業後の学習支援領域 3. 質疑応答

(1) 学校経営重要指標の今年度前期の取組と着地見込みについて

学校経営重要指標としている4項目について、今年度の着地見込みの報告を行った。

1. 退学除籍率
2. 就職率
3. 定員充足率
4. 国試合格率

①退学除籍率

○着地見込み

目標に対して 0.6pt 不足

○上半期の取組

1. 副担任制・専任教員のメールアドレスの公表
2. 学科内国試対策の実施（勉強面のフォローアップ）
3. 学科会議にて中退の危険性がある学生の早期共有

○下半期の取組予定

1. 面談の実施（再試験者、希望者に対して実施）
2. 学生管理台帳への即時記入を徹底

②就職率

○着地見込み

就職決定率：目標達成見込み

進路決定率：目標に対して 7.3pt 不足

○上半期の取組

1. 4月開催の第1回業界フェスタへの参加促進：過去最多131名が参加
2. 新たな就職先の開拓：約30の受け入れ可能な治療院を開拓
3. クラス担任との連携・情報共有

○下半期の取組予定

1. 学生ニーズに合ったテーマでのイベント実施
2. 高年齢層の就職支援
 - ・年齢制限を設けていなく、幅広く採用をおこなっている治療院の開拓
 - ・開業や訪問鍼灸などの知識が得られる機会を設ける
3. 1、2年生に対する早期からの就活意識付け

③定員充足率

○着地見込み

目標達成見込み

○上半期の取組

1. 競争優位性の訴求
 - ・特長あるオープンキャンパスの実施（美容鍼灸・不妊鍼灸イベントなど）

- ・授業やゼミ活動の紹介（HP トピックス・SNS での掲載）
- 2. メディア掲載
 - ・『日刊ゲンダイヘルスケア』への連載による校名認知活動

○下半期の取組予定

1. 昼間部の専門実践教育訓練給付金の対象講座認定の告知
 - ・HP、チラシ、DM、WEB 広告等による案内
 - ・オープンキャンパスでの説明
2. 入試倍率1.5倍を目指した募集活動
 - ・集客力のあるオープンキャンパスの継続開催
 - ・優秀な人材を確保するための入試の目線合わせ

④国試合格率

○着地見込み

目標に対し 19.1pt 不足

○上半期の取組

- 1 年生：目的ごとの課外講習を 2 つ実施
 - ・定期試験対策：授業の復習を主軸に、定期試験合格を焦点にした講義・演習
 - ・ワークショップクラス：体験型・参加型の課題を通して楽しみながら学ぶ
 - ・学生目線に近いアドバイスが可能なチューターを導入
- 2 年生：難易度の高い科目に焦点を絞って課外補習を実施
 - ・臨床医学各論を主軸に、解剖学・生理学の内容も復習する内容
- 3 年生：やる気はあるがやることが明確でない学生に対し課題を提示
 - ・解剖生理の内容を一問一答形式で覚え・確認問題を解く、を繰り返す

○下半期の取組予定

1. 成績不良者をメインとした勉強合宿を実施
2. 課外補習を複数名の教員により実施
3. 卒業試験を 2 回実施
4. 難易度別による過去 5 年の国試過去問の提示（覚える項目の絞り込み）

【質疑】

委員から以下の質問・意見が挙がった。

○退学除籍率

- ・副担任を導入することでの退学除籍率への影響は？
→昨年度より 1 年生の副担任制を導入し、1 年次の退学者数は例年より減少した。
(信頼関係がより構築できているように感じる)

○国家試験合格率

- ・ 合格率が低い要因は？

→1つの要因として、受験の制限（いわゆる足切り）は行っていないことが挙げられる。

本年度より、組織的に国試対策に取り組む体制に変更し、学習支援を行っている。

- ・ 学生同士が自ら学び合う仕組みの構築

記憶しなければならないことを学生同士がアウトプットし合う

そういう学び方をする学校である「校風」にして「当たり前の文化」としていくとより良くなっていくのではないか。

○定員充足率

- ・ 他校の充足率はどれくらいか？

- ・ 専門実践教育訓練給付金対象校は東京都内にはどのくらいあるのか？

- ・ 国家試験の合格率を上げるためにも、入試倍率 1.5 倍を目標とすることは理に適っていると感じる。

○就職率

- ・ 高年齢層の学生の就職率への課題感

→高年齢層は就職ができていないものの、本当に満足した就職に結びついていない部分もある。

- ・ 卒業すぐに開業をする学生はどの程度か？

→現 3 年生の開業希望者は全体の約 10%

昨年度の実績としても約 10%

（卒業すぐ開業が 5%程度、半年経過後開業が 5%程度）

○その他

- ・ 自由診療や周辺領域を学ぶ機会も今後取り入れていっても良いのではないか。

(2) 卒業後の学習支援について

自己評価を行い、学内で協議を行った結果、優先取組事項として「卒業後の学習支援」が挙げられ、本件について以下の報告がなされた。

1. 現状の実施状況
2. 卒業後の学習支援領域
3. 質疑応答

卒業生に対する支援として行うべき事柄やテーマについて意見交換を行った。
委員からは以下の意見が挙げられた。

- ・現 2 年生より、施術管理者の要件として実務経験 1 年が必要になるため、学校の附属鍼灸院には実務経験を積むということニーズが出てくる。
- ・開業を視野に入れている卒業生には「マーケティングスキル」が必要であることから今後検討する学習支援領域として追加してはどうか。
- ・学校の経営資源として、学費収入以外の新たな収益事業は検討しているか？
→卒業生のみならず一般の方にも学んでいただける場を構想中。

令和 4 年度 第 2 回学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】 令和 5 年 2 月 16 日（木） 15:05～16:05

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 鈴木 幸次郎（株式会社天心堂鍼灸院 院長）

松田 博公（元東洋鍼灸専門学校 副校長）

寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）

小林 潤一郎（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）

武内 潔（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）

学校 岸本 光正（副校長）

天野 陽介（鍼灸学科 学科長）

中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）

森下 友雄（柔道整復学科 学科長）

伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）

事務局 吉田 智哉（事務部長代行）

小浜 悠樹 沢田 秀樹 川上 英史 伊藤 真紀 緒方 洋太郎 西山 花香

兼子 啓太郎（議事録）

以上 18 名

【欠席】 委員 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）

藤原 良次（本校校友会 会長、株式会社アールエフ 代表取締役社長）

【議題】

- (1) ビジョン 2022 の振り返り
- (2) ビジョン 2030 の紹介
- (3) 7 年後の動向予測とビジョン作成経緯
- (4) 意見交換

—資料共有—

学校経営重要指標の今年度前期の取組と着地見込みについて

学校経営重要指標としている 4 項目について、今年度の着地見込みの報告を
事前の資料共有にて行った。

1. 退学除籍率
2. 就職率
3. 定員充足率
4. 国試合格率

(1) ビジョン 2022 の振り返り

ビジョン 2022
『他者オリエンテッドの心と自ら生き抜く力を持ったグローバルで活躍できる 統合医療のパイオニアを育成します』 <ol style="list-style-type: none">1. 確かな合格力の育成2. 専門家との連携や新たな活躍フィールドの開拓3. 学習支援体制の構築と人材育成～学習者本位の職業人育成への転換～4. DX 化に向け新三年計画の開始

【振り返り】

1. 確かな合格力の育成 評価：△

国試合格率向上に向けて個々の教員は取組んでいるものの、組織的な取り組みは不十分であった。

本年度より組織的な3ヵ年計画を立て、入学時からどのように国試合格に導くかを設計し、実行と振り返りを開始している。

2. 専門家との連携や新たな活躍フィールドの開拓 評価：△

海外視察や専門家との連携までは行ったが、コロナ禍によって学生への展開まで実行はできていない。

EX) アジアでの柔道整復師・鍼灸師の活躍フィールドの開拓
統合医療の専門医との連携プログラム

3. 学習支援体制の構築と人材育成～学習者本位の職業人育成への転換～ 評価：○

学修者本位で教学の運営を行うように教職員の考え方の転換ができた。

本年度より柔道整復学科昼間部1年生において特別なプログラムを導入。

学力を構成する3つの要素(学習習慣・学習方法・モチベーション)から個別のリサーチ・評価とそれに対する個別指導を行うことで成果が上がっている。

4. DX 化に向け新三年計画の開始 評価：○

私たちが考える教育のDXとして、

「個々の学生(レベル・時間・場所)に応じた学習」に教育の在り方・提供を考え直すことを方針決定し、オンデマンド・ハイブリッド授業の導入などの取組みを開始した。

(2) ビジョン 2030 の紹介

ビジョン 2030

『未来のエキスパートたちと、共に学び共に挑戦し続けます。』

全ての学生は、専門知識・技術はもとより、コミュニケーション力、学ぶ力、倫理観、主体性など、自身の将来に必要な力を身につけることができる「未来のエキスパート」であると考えます。

このような信念のもと、学生と共に教職員も学び続け、学び合う姿勢を育み、個人・組織・社会の課題解決に向けて挑戦し続けます。

(3) 7年後の動向予測とビジョン作成経緯

1. 7年後の動向予測

2030年の医療、社会、教育の3つの分野に関する動向予測

【医療分野】

- ・予測や予防

従来の「病気になってからの治療」ということから、「事前に発症を予測し抑え込む医療」へと転換される。

予防医療関連の輸出産業の規模が大幅に拡大すると見込まれている。

- ・AI やシステム導入の拡大

人工知能による予測が行われることにより疾病の早期発見や、システムが体の異変を検知して知らせるなどといった未来が実現されていると予測されている。

- ・うつ病が世界1位の疾病となる

- ・医薬品に代わる治療方法が求められるようになる

【社会分野】

- ・人工知能や自動化

人工知能が労働者にとって代わり、大量失業や、より低賃金の仕事に迫ることが発生。

その結果、行き場を失った労働者が学びなおしを迫られる。

- ・あらゆる分野で女性がより活躍する社会が実現する。

- ・高齢者の人口の割合が全体の3割を占めるようになる。

【教育分野】

- ・脱知識依存化

過程の自由を大幅に認める教育、学生中心・習熟度別の教育体制へと

転換されていく。

一方的に知識を教える場ではなく、プロジェクト型、体験型の学習を通して、「学生自身が知識を生産する場」へと変化していく。

- ・教室のデザインも画一的なものではなく、オープンでフレキシブルなものが主流となり、ICT化も大幅に進展していく。
- ・多様性、流動性が求められる教育現場には、社会人経験のある教員採用の促進
- ・ビジョンや教育方針に共感できる学校を選ぶ傾向が強まる

<参考文献>

- 博報堂生活総合研究所、『未来年表』
<https://seikatsusoken.jp/futuretimeline/>
- 学校法人ワオ未来学園 ワオ高等学校、『ブログ』
<https://www.wao.ed.jp/blog/3470/>
- 未来教育会議、『2030年の社会・教育の未来シナリオ』
<https://miraikk.jp/wordpress/wp-content/uploads/2018/11/589d0c3562774f5d4edea3a9932f15ed.pdf>

2. ビジョン作成経緯

7年後の動向予測から、2030年は変動が大きく「将来の変化を予測することが困難な時代」であると想定し、以下のことが必要であると定義した。

○学生

自身の将来像に必要なスキルを習得し、自己を確立することが必要

○教職員

- ・知識偏重型からスキルや能力重視の教育
- ・ICTをうまく活用できるスキルの習得
- ・一様に教えるだけでなく個別に支援できる力を習得

ビジョン2030 『未来のエキスパートたちと、共に学び共に挑戦し続けます。』

○確固たる自己の確立

専門知識・技術はもとより、コミュニケーション力、学ぶ力、倫理観、主体性など、(他者と同じではなく)自身の将来に必要な力を身につけることができる「未来のエキスパート」

※自身の将来に必要な力を身につけている姿:「未来のエキスパート」

○教職員のスキルアップ

学生と共に教職員も学び続け、学び合う姿勢を育み、個人・組織・社会の課題解決に向けて挑戦し続ける。

【意見交換】

(1) 業界の未来予測

- ・社会課題となっている「予防」「高齢化」「うつ」には、はりきゅうが有効である。
- ・自然治癒力がもう一度見直されるようになる。
- ・人工化が進むほど、それでは得られない幸福を求めて自然に回帰もしていく。
(はりきゅうは人工と自然との結節点で営む職業である)

(2) 先生方の治療院の未来予測

(3) 教育の未来予測

・2030年

AIを活用したアダプティブラーニングがメタバース上で行われることが一般的になる。

(アバター空間で人工知能が知識のインプットを高高度に無料で行われる時代が来る)

技術的なものはやコミュニケーション・人間力の育成を学校等のリアル空間で行う。

・2040年

現在とは職業ががらっと変わっていることから学校教育として扱う職業が大きく変わっている。

(4) ビジョンについて

- ・今回ビジョンとして記載されているものは教職員の在り方としての行動指針に近い。「学校はどうありたいか」をビジョンとして記載をするべきである。
例えば、

「DXを活用した日本トップクラスの学校になっている」

柔整鍼灸を含む統合医療に関するすべての知見が集まっているプラットフォームを作成し、リスクリング系のサブスクリプションサービスをたくさんの方々を対象に展開する。

(背景には)

2030年の雇用状況予測 ※三菱総研

730万人が職を失い、新たに生まれる職業は400万人。

高齢化が進み、リタイアする人が生じる一方で職を失う若者が増加。

→学び直しニーズが増大

- ・共に学び共に成長するために教員の研究日・研究費の設定

現在も研究日・研修費を設定しているが、心や感性を磨くところまで研究費を認めることができても良いのではないか。

令和 4 年度 第 2 回学校関係者評価委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】 令和 5 年 2 月 21 日（火） 14:00～16:10

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 佐藤 和伸（佐藤代田接骨院 院長）
加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）
小泉 利幸（三進興産株式会社）
道狭 ひろ子（ひろこ整骨治療室 院長）
小林 篤史（株式会社ボディスプラウト 代表取締役）
松井 薫（国際ライセンス「NESTA PFT」日本支部 協会設立参画理事 等）
学校 奥田 久幸（校長）
岸本 光正（副校長）
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
鴨田 佳典（柔道整復学科教員）
事務局 吉田 智哉（事務部長代行）
小浜 悠樹 相馬 しのぶ 伊藤 真紀 川上 英史 緒方 洋太郎 西山 花香
兼子 啓太郎（議事録）

以上 21 名

【欠席】 委員 伊藤 述史（公益社団法人日本柔道整復師会会長）

【議題】

- (1) ビジョン 2022 の振り返り
- (2) ビジョン 2030 の紹介
- (3) 7 年後の動向予測とビジョン作成経緯
- (4) 意見交換

—資料共有—

学校経営重要指標の今年度前期の取組と着地見込みについて
学校経営重要指標としている 4 項目について、今年度の着地見込みの報告を
事前の資料共有にて行った。

1. 退学除籍率
2. 就職率
3. 定員充足率
4. 国試合格率

(1) ビジョン 2022 の振返り

ビジョン 2022
『他者オリエンテッドの心と自ら生き抜く力を持ったグローバルで活躍できる 統合医療のパイオニアを育成します』 <ol style="list-style-type: none">1. 確かな合格力の育成2. 専門家との連携や新たな活躍フィールドの開拓3. 学習支援体制の構築と人材育成～学習者本位の職業人育成への転換～4. DX 化に向け新三年計画の開始

【振り返り】

1. 確かな合格力の育成 評価：△

国試合格率向上に向けて個々の教員は取組んでいるものの、組織的な取り組みは不十分であった。

本年度より組織的な 3 ヶ年計画を立て、入学時からどのように国試合格に導くかを設計し、実行と振り返りを開始している。

2. 専門家との連携や新たな活躍フィールドの開拓 評価：△

海外視察や専門家との連携までは行ったが、コロナ禍によって学生への展開まで実行はできていない。

EX) アジアでの柔道整復師・鍼灸師の活躍フィールドの開拓
統合医療の専門医との連携プログラム

3. 学習支援体制の構築と人材育成～学習者本位の職業人育成への転換～ 評価：○

学修者本位で教学の運営を行うように教職員の考え方の転換ができた。

本年度より柔道整復学科昼間部 1 年生において特別なプログラムを導入。

学力を構成する 3 つの要素（学習習慣・学習方法・モチベーション）から個別のリサーチ・評価とそれに対する個別指導を行うことで成果が上がっている。

4. DX 化に向け新三年計画の開始 評価：○

私たちが考える教育の DX として、

「個々の学生（レベル・時間・場所）に応じた学習」に教育の在り方・提供を考え直すことを方針決定し、オンデマンド・ハイブリッド授業の導入などの取組みを開始した。

(2) ビジョン 2030 の紹介

ビジョン 2030
『未来のエキスパートたちと、共に学び共に挑戦し続けます。』 全ての学生は、専門知識・技術はもとより、コミュニケーション力、学ぶ力、倫理観、主体性など、自身の将来に必要な力を身につけることができる「未来のエキスパート」であると考えます。 このような信念のもと、学生と共に教職員も学び続け、学び合う姿勢を育み、個人・組織・社会の課題解決に向けて挑戦し続けます。

(3) 7年後の動向予測とビジョン作成経緯

1. 7年後の動向予測

2030年の医療、社会、教育の3つの分野に関する動向予測

【医療分野】

- ・予測や予防
従来の「病気になってからの治療」ということから、「事前に発症を予測し抑え込む医療」へと転換される。
予防医療関連の輸出産業の規模が大幅に拡大すると見込まれている。
- ・AI やシステム導入の拡大
人工知能による予測が行われることにより疾病の早期発見や、システムが体の異変を検知して知らせるなどといった未来が実現されていると予測されている。
- ・うつ病が世界1位の疾病となる
- ・医薬品に代わる治療方法が求められるようになる

【社会分野】

- ・人工知能や自動化
人工知能が労働者にとって代わり、大量失業や、より低賃金の仕事に迫いやることが発生。
その結果、行き場を失った労働者が学びなおしを迫られる。
- ・あらゆる分野で女性がより活躍する社会が実現する。
- ・高齢者の人口の割合が全体の3割を占めるようになる。

【教育分野】

- ・脱知識依存化
過程の自由を大幅に認める教育、学生中心・習熟度別の教育体制へと

転換されていく。

一方的に知識を教える場ではなく、プロジェクト型、体験型の学習を通して、「学生自身が知識を生産する場」へと変化していく。

- ・教室のデザインも画一的なものではなく、オープンでフレキシブルなものが主流となり、ICT化も大幅に進展していく。
- ・多様性、流動性が求められる教育現場には、社会人経験のある教員採用の促進
- ・ビジョンや教育方針に共感できる学校を選ぶ傾向が強まる

<参考文献>

- 博報堂生活総合研究所、『未来年表』
<https://seikatsusoken.jp/futuretimeline/>
- 学校法人ワオ未来学園 ワオ高等学校、『ブログ』
<https://www.wao.ed.jp/blog/3470/>
- 未来教育会議、『2030年の社会・教育の未来シナリオ』
<https://miraikk.jp/wordpress/wp-content/uploads/2018/11/589d0c3562774f5d4edea3a9932f15ed.pdf>

2. ビジョン作成経緯

7年後の動向予測から、2030年は変動が大きく「将来の変化を予測することが困難な時代」であると想定し、以下のことが必要であると定義した。

○学生

自身の将来像に必要なスキルを習得し、自己を確立することが必要

○教職員

- ・知識偏重型からスキルや能力重視の教育
- ・ICTをうまく活用できるスキルの習得
- ・一様に教えるだけでなく個別に支援できる力を習得

ビジョン2030 『未来のエキスパートたちと、共に学び共に挑戦し続けます。』

○確固たる自己の確立

専門知識・技術はもとより、コミュニケーション力、学ぶ力、倫理観、主体性など、(他者と同じではなく)自身の将来に必要な力を身につけることができる「未来のエキスパート」

※自身の将来に必要な力を身につけている姿:「未来のエキスパート」

○教職員のスキルアップ

学生と共に教職員も学び続け、学び合う姿勢を育み、個人・組織・社会の課題解決に向けて挑戦し続ける。

【意見交換】

(1) 業界の未来予測

- ・ 予防医療への転換も考えながら、伝統的な柔道整復師としての根幹部分を継承
- ・ 柔道整復師の活躍の場は狭い世界ではなく広がっていかねばいけない。
接骨院で働くだけでなく、活躍の場は無数にあって多様化していく。
- ・ 接骨院+@のサービスが求められるようになってくるのではないか
Ex) 治療外のサービス (治療を終えた後の自己ケア・再発防止法)
物販・商品開発 など

(2) 先生方の治療院の未来予測

- ・ 差別化
他の治療院と比較したときの優位性をいかに作り上げるか。

(3) 教育の未来予測

- ・ 心の状態が身体にどのように現れるかを繋げて考えなければいけない
→学校教育の中でもメンタルケアや心理を学ぶ機会を設けると良いと思う。
- ・ 技術的に支えるだけでなく、人としての心の支えになることを育んでほしい。

(4) ビジョンについて

- ・ ビジョンや未来予測を学生にも伝えるべき
先端医療やヘルスケア業界の動向など、広いものを見せつつ、
「こういう世の中で柔道整復師がどうするか」を学生本人に問いかけて未来予測する。
入学式などの場面で未来予測とビジョンを共有することで学生のモチベーションも向上するのではないか。